



あなたの、いちばんであるために。2015. 7 ~ 9月期 No. 031

やましん

中小企業景況レポート

山梨信用金庫 総合企画部
〒400-0032 甲府市中央 1-12-36
TEL 055-225-0213
ホームページアドレス
<http://www.yamasin.jp/>

2015.10.15 発行

■ 調査要領 ■

1. 調査対象
当金庫営業エリア内の取引先中小企業 120 社
2. 調査時期・期間
調査時期：2015年9月1日～7日
調査期間：今期実績 2015年7月～9月
来期見通し 2015年10月～12月
3. 調査方法
当金庫職員による訪問聞き取り調査
4. 分析方法
DI を中心に分析

■ 調査対象と回答状況 ■

業種	企業数	回答数	回答率
製造業	30	30	100%
卸売業	15	15	100%
小売業	15	15	100%
サービス業	29	28	96%
建設業	23	23	100%
不動産業	8	8	100%
合計	120	119	99%

※ 国中地区 72 社、東部地区 30 社、相模原市周辺地区 17 社

※ DI (Diffusion Index) とは

各質問事項で「良い（増加）」とした企業割合－「悪い（減少）」とした企業割合の構成比との差（判断 DI）による分析です。
例えば、回答が以下のような場合の DI の算出方法は、次のとおりです。

（例）「良い・やや良い」の回答が 50%、「変わらず」の回答が 30%、「悪い・やや悪い」の回答が 20% の場合

DI は 50「良い・やや良い」－20「悪い・やや悪い」＝ ＋30 となります。DI 値が高いほど景気が良いことを示しています。

業況判断 DI

業種	前期	今期実績			来期見通し		
		良い	悪い	DI	良い	悪い	DI
総合	▲11.6	25.2	29.4	▲4.2	15.3	35.6	▲20.3
製造業	▲6.7	30.0	36.7	▲6.7	10.2	37.9	▲27.7
卸売業	▲6.7	20.0	33.3	▲13.3	13.3	33.3	▲20.0
小売業	▲53.3	13.3	26.7	▲13.3	20.0	33.3	▲13.3
サービス業	▲6.9	39.3	25.0	14.3	17.8	35.7	▲17.9
建設業	▲8.7	13.0	21.7	▲8.7	12.9	43.5	▲30.4
不動産業	12.5	25.0	37.5	▲12.5	25.0	12.5	12.5

業種別景気天気図

業種	前期	今期	見通し
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。また、掲載資料は、正確性・完全性を保証するものではありません。

31 以上	11~30	10~▲10	▲11~▲30	▲30 未満

概況

<業況・売上・収益>

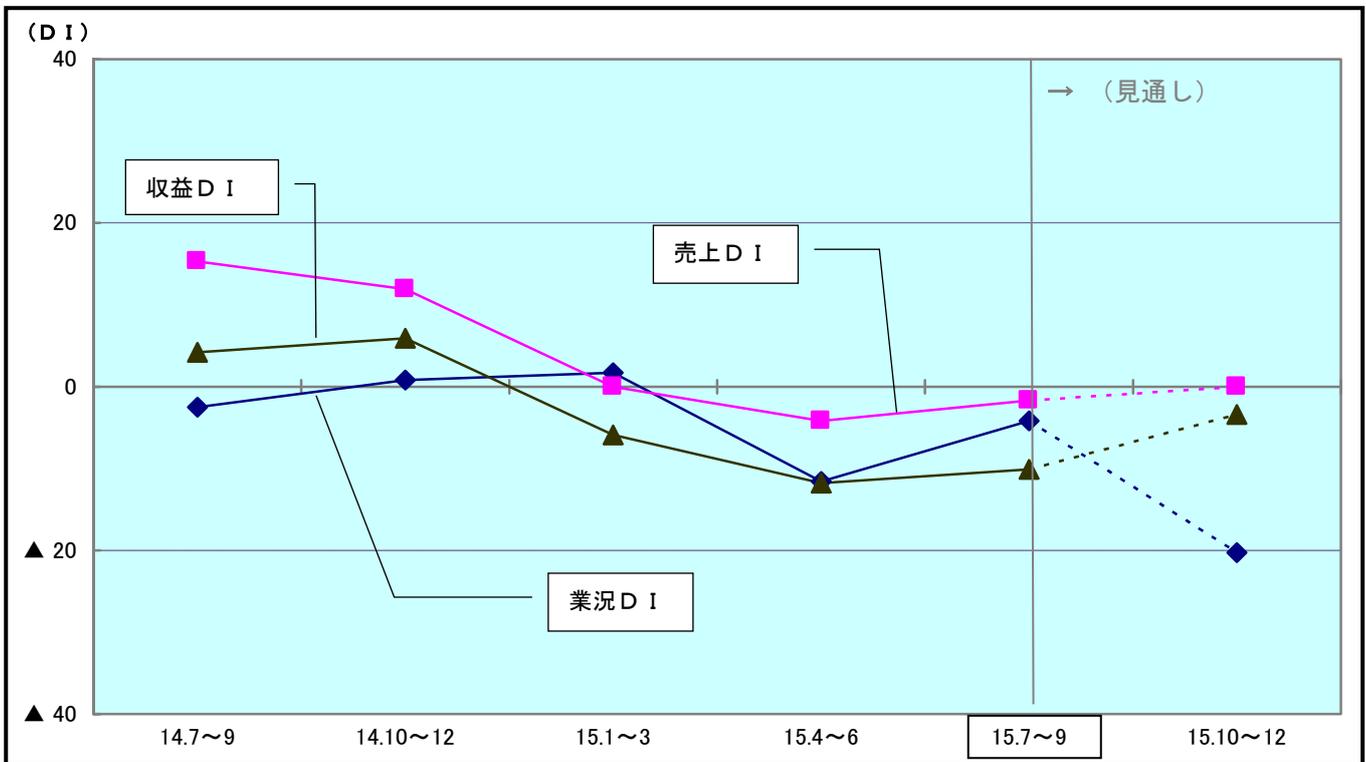
今期（7～9月）の全業種総合の業況判断DI（「良い」－「悪い」）は、前期（4～6月）の▲11.6から7.4ポイント改善の▲4.2となりました（前年同期比1.7ポイント悪化）。業種別でみると卸売業・不動産業で悪化したものの、小売業・サービス業で改善しました。

また、売上DI（「増加」－「減少」）は、前期比2.5ポイント改善の▲1.7となっています（前年同期比17.0ポイント悪化）。業種別でみると製造業・卸売業・不動産業で悪化したものの、小売業・サービス業・建設業で改善しました。収益DI（「増加」－「減少」）は、前期比1.7ポイント改善の▲10.1となっています（前年同期比14.3ポイント悪化）。業種別でみると小売業・サービス業・建設業で改善したものの、その他の業種で悪化しました。

全業種総合の来期見通し（10～12月）をみると、業況判断DIが▲20.3と、今期実績比16.1ポイントの悪化が見込まれています。また、売上DIは0.0と、同1.7ポイントの改善、収益DIは▲3.4と、同6.7ポイントの改善が見込まれています。業種別の業況判断DIは、不動産業で改善が見込まれるものの、その他全ての業種で悪化が見込まれています。

■ 業況・売上・収益DIの時系列推移

	14.7～9	14.10～12	15.1～3	15.4～6	15.7～9	15.10～12見通し
業況DI	▲2.5	0.8	1.7	▲11.6	▲4.2	▲20.3
売上DI	15.3	11.9	0.0	▲4.2	▲1.7	0.0
収益DI	4.2	5.9	▲5.9	▲11.8	▲10.1	▲3.4



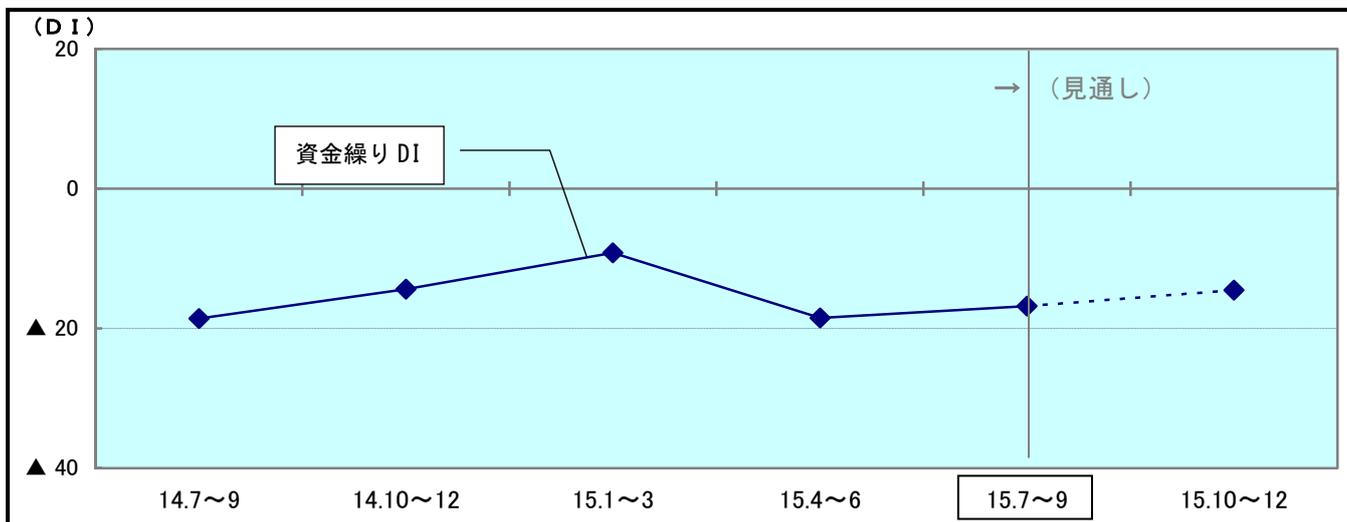
<資金繰り>

資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）は▲16.8と、前期比1.7ポイントの改善となりました（前年同期比1.8ポイント改善）。

また、来期の資金繰りDIは▲14.5と、今期実績比2.3ポイントの改善が見込まれています。

■ 資金繰りDIの時系列推移

	14.7~9	14.10~12	15.1~3	15.1~3	15.7~9	15.10~12 見通し
資金繰りDI	▲18.6	▲14.4	▲9.2	▲18.5	▲16.8	▲14.5



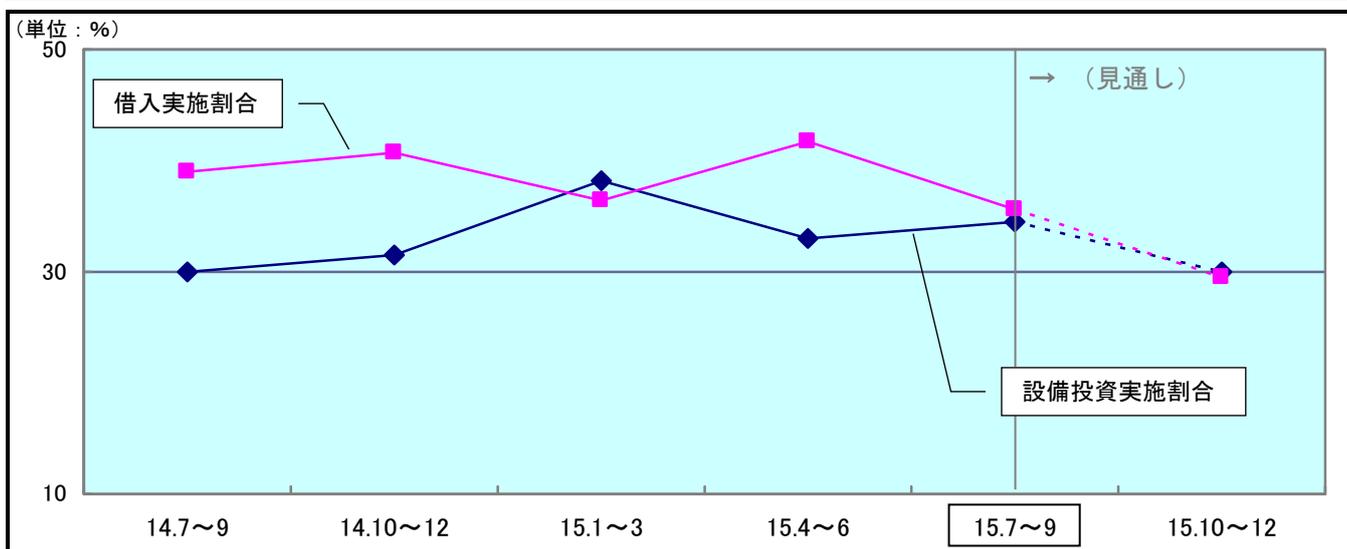
<設備投資・借入動向>

不動産業を除いた設備投資実施企業割合は34.5%と、前期比1.5ポイント上昇しています（前年同期比4.5ポイント上昇）。また、来期の設備投資実施予定企業割合は30.0%と今期実績比4.5ポイントの低下が見込まれています。

全業種総合の借入実施企業割合は35.6%と、前期比6.1ポイント低下しています（前年同期比3.4ポイント低下）。また、来期の借入実施予定企業割合は29.5%と、今期実績比6.1ポイントの低下が見込まれています。

■ 設備投資・借入実施動向の時系列推移

	14.7~9	14.10~12	15.1~3	15.4~6	15.7~9	15.10~12 見通し
設備投資実施割合	30.0%	31.5%	38.2%	33.0%	34.5%	30.0%
借入実施割合	39.0%	40.7%	36.4%	41.7%	35.6%	29.5%



【製造業】

今期の業況判断D Iは▲6.7となり、前期（4～6月）比横ばいとなりました（前年同期比 3.6 ポイント改善）。売上D Iは同 17.1 ポイント悪化の▲13.8、収益D Iは同 20.0 ポイント悪化の▲20.0、資金繰りD Iは、同 13.3 ポイント悪化の▲16.7となりました。

来期（10～12月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比 21.0 ポイント悪化の▲27.7、売上D Iが同 13.8 ポイント改善の0.0、収益D Iは同比 26.7 ポイント改善の 6.7、資金繰りD Iが同 3.3 ポイント改善の▲13.3を見込まれています。

■経営上の問題点（）内は前回順位

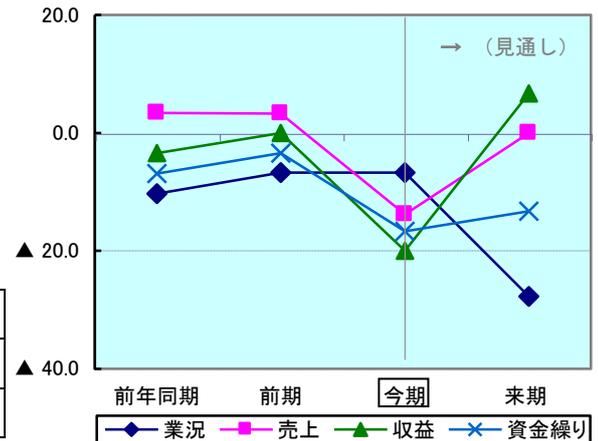
1	売上の停滞・減少(1)	46.7%
2	利幅の縮小(2)	40.0%
3	原材料高(3)	30.0%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減(1)	60.0%
2	販路の拡大(2)	53.3%
3	新製品・技術の開発(3)	26.7%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲10.3	▲6.7	▲6.7	▲27.7
売上	3.4	3.3	▲13.8	0.0
収益	▲3.4	0.0	▲20.0	6.7
資金繰り	▲6.9	▲3.4	▲16.7	▲13.3



【卸売業】

今期の業況判断D Iは▲13.3となり、前期（4～6月）比 6.6 ポイント悪化しました（前年同期比 13.4 ポイント改善）。売上D Iは同 33.3 ポイント悪化の▲13.3、収益D Iは同 13.3 ポイント悪化の▲20.0、資金繰りD Iは、同 6.6 ポイント悪化の▲33.3と全てのD Iで悪化となりました。

来期（10～12月）の見通しについては、業況判断D Iが、今期実績比 6.7 ポイントの悪化の▲20.0、売上D Iが同 40.0 ポイント改善の 26.7、収益D Iが同 13.3 ポイント改善の▲6.7、資金繰りD Iが同 20.0 ポイント改善の▲13.3と見込まれています。

こうした中、当面の重点経営施策として、「人材の確保」を挙げる先が 33.3%となり、前回の 8 位から 3 位に上昇しました。

■経営上の問題点（）内は前回順位

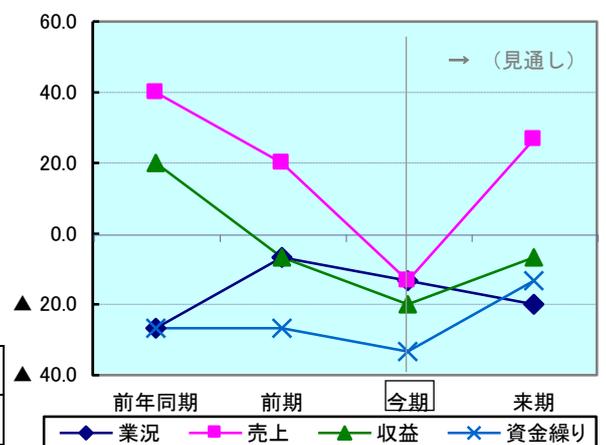
1	売上の停滞・減少(1)	40.0%
2	利幅の減少(4)	40.0%
3	同業者間競争の激化(2)	33.3%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	66.7%
2	経費の節減(2)	60.0%
3	情報力強化(4)	33.3%
	人材の確保(8)	33.3%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲26.7	▲6.7	▲13.3	▲20.0
売上	40.0	20.0	▲13.3	26.7
収益	20.0	▲6.7	▲20.0	▲6.7
資金繰り	▲26.7	▲26.7	▲33.3	▲13.3



【小売業】

今期の業況判断D Iは▲13.3となり、前期（4～6月）比40.0ポイント改善しました（前年同期比26.7ポイント改善）。売上D Iは同66.7ポイント改善の20.0、収益D Iは同60.0ポイント改善の13.3と全般に改善が見られました。資金繰りD Iは同横ばいの▲33.3となりました。

来期（10～12月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比横ばいの▲13.3、売上D Iが同6.7ポイント悪化の13.3、収益D Iが同6.7ポイント悪化の6.7、資金繰りD Iが同6.6ポイント改善の▲26.7と見込まれています。

こうした中、当面の重点経営施策として「仕入先の開拓・選別」と挙げる先が20%となり、前回の7位から3位に上昇しました。

■経営上の問題点（）は前回順位

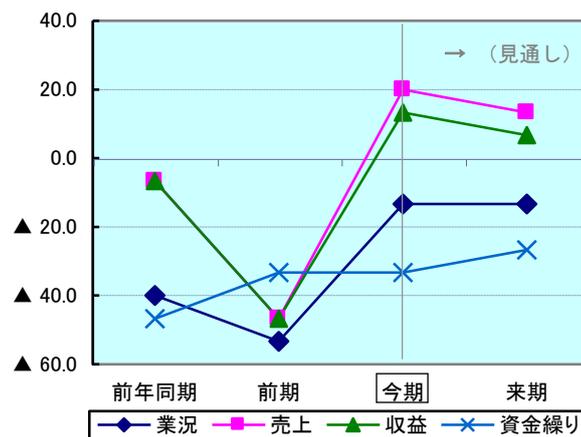
1	売上の停滞・減少(1)	46.7%
2	利幅の縮小(3)	40.0%
3	同業者間の競争激化(2)	33.3%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減(1)	60.0%
2	品揃えの改善(3)	26.7%
3	仕入先の開拓・選別(7)	20.0%
	売れ筋商品の取扱い(5)	20.0%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲40.0	▲53.3	▲13.3	▲13.3
売上	▲6.7	▲46.7	20.0	13.3
収益	▲6.7	▲46.7	13.3	6.7
資金繰り	▲46.7	▲33.3	▲33.3	▲26.7



【サービス業】

今期の業況判断D Iは14.3となり、前期（4～6月）比21.2ポイント改善しました（前年同期比13.3ポイント悪化）。売上D Iは同18.0ポイント改善の21.4、収益D Iは同17.6ポイント改善の10.7、資金繰りD Iは、同6.7ポイント改善の▲7.1と全てのD Iで改善となりました。

来期（10～12月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比32.2ポイント悪化の▲17.9、売上D Iが同28.5ポイント悪化の▲7.1、収益D Iが同21.4ポイント悪化の▲10.7、資金繰りD Iが同3.5ポイント改善の▲3.6と見込まれています。

こうした中、当面の重点経営施策として「新事業の開始」が21.4%となり、前回の8位から3位に上昇しました。

■経営上の問題点（）は前回順位

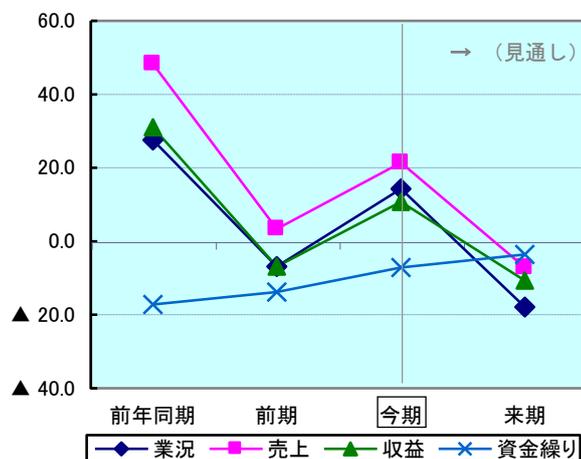
1	売上の停滞・減少(1)	35.7%
2	人手不足(2)	28.6%
3	利幅の減少(2)	25.0%
	人件費の増加	25.0%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	57.1%
2	経費の節減(2)	41.4%
3	人材の確保(3)	21.4%
	新事業の開始(8)	21.4%
	教育訓練の強化(4)	21.4%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	27.6	▲6.9	14.3	▲17.9
売上	48.3	3.4	21.4	▲7.1
収益	31.0	▲6.9	10.7	▲10.7
資金繰り	▲17.2	▲13.8	▲7.1	▲3.6



【建設業】

今期の業況判断D Iは▲8.7となり、前期（4～6月）比で横ばい（前年同期比17.8ポイント悪化）。売上D Iは同13.0ポイント改善の▲17.4、収益D Iは同10.3ポイント改善の▲26.1、資金繰りD Iは、同17.4ポイント改善の▲17.4と全てのD Iで改善しましたが、依然として全D Iで0を下回っており、厳しい状況が続いているものとみられます。

来期（10～12月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比21.7ポイント悪化の▲30.4、売上D Iが同4.3ポイント悪化の▲21.7、収益D Iが同8.7ポイント改善の▲17.4、資金繰りD Iが同4.3ポイント悪化の▲21.7と見込まれています。

■経営上の問題点（）は前回順位

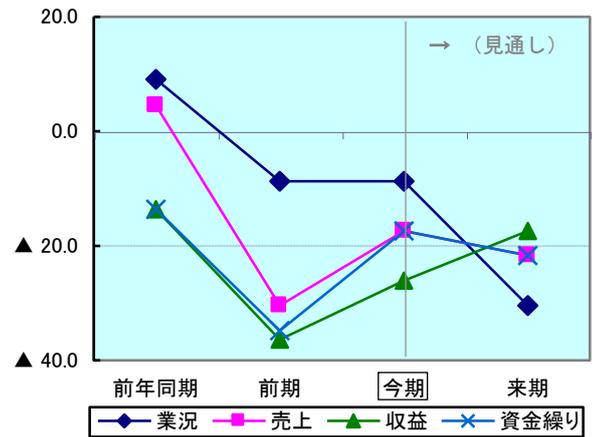
1	利幅の縮小(2)	43.5%
2	同業者間の競争の激化(1)	39.1%
3	売り上げの停滞・減少	39.1%

■当面の重点経営施策

1	経費の節減(3)	43.5%
2	販路の拡大(4)	43.5%
	技術力の強化(1)	39.1%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	9.1	▲8.7	▲8.7	▲30.4
売上	4.5	▲30.4	▲17.4	▲21.7
収益	▲13.6	▲36.4	▲26.1	▲17.4
資金繰り	▲13.6	▲34.8	▲17.4	▲21.7



【不動産業】

今期の業況判断D Iは▲12.5となり、前期（4～6月）比で25.0ポイント悪化しました（前年同期比12.5ポイント悪化）。売上D Iが同62.5ポイント悪化の▲12.5、収益D Iが同75.0ポイント悪化の▲25.0となり、全般に悪化の傾向がみられました。資金繰りD Iは同比12.5ポイント改善の12.5となりました。

来期（10～12月）の見通しについては、業況判断D Iが今期実績比25.0ポイント改善の12.5、売上D Iが同25.0ポイント改善の12.5、収益D Iが同37.5ポイント改善の12.5、資金繰りD Iが同26.8ポイント悪化の▲14.3となっています。

こうした中、経営上の問題点として「利幅の縮小」が62.5%となり、前回の5位から1位に上昇しました。

■経営上の問題点（）は前回順位

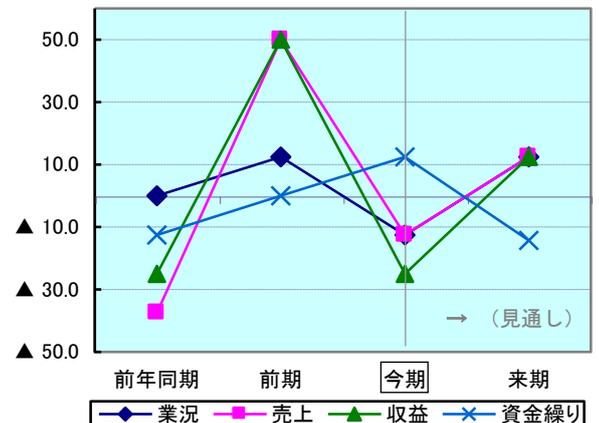
1	利幅の縮小(5)	62.5%
2	人手不足(3)	50.0%
3	人件費以外の経費増加(5)	37.5%
	同業者の競争の激化(3)	37.5%
	売上の停滞・減少(2)	37.5%

■当面の重点経営施策

1	情報力強化(1)	50.0%
	販路拡大(2)	50.0%
	人材確保(2)	50.0%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	0.0	12.5	▲12.5	12.5
売上	▲37.5	50.0	▲12.5	12.5
収益	▲25.0	50.0	▲25.0	12.5
資金繰り	▲12.5	0.0	12.5	▲14.3



<地区別D I の状況>

	国 中 地 区				東 部 地 区				相 模 原 市 周 辺 地 区			
	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期	前年同期	前期	今期	来期
業況D I	▲5.7	▲19.7	▲15.7	▲18.8	▲10.0	3.3	23.3	▲26.7	23.5	▲5.9	11.8	▲23.5
売上D I	17.1	▲12.7	▲8.7	4.3	10.0	6.7	16.7	▲13.3	17.6	11.8	17.6	▲5.9
収益D I	2.9	▲21.4	▲14.3	1.4	6.7	6.7	3.3	▲13.3	11.8	▲5.9	▲5.9	▲11.8

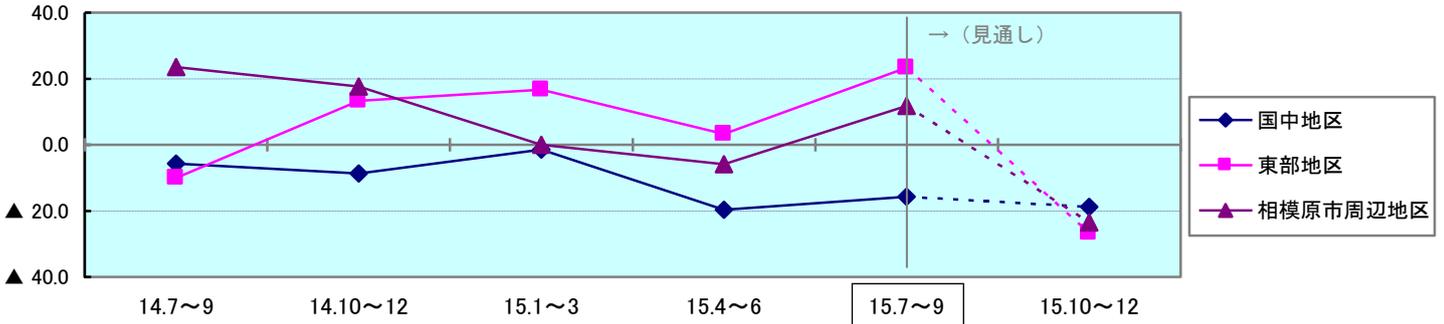
国中地区においては、業況判断D Iが▲15.7と、前期（4～6月）の▲19.7から4.0ポイントの改善となりました（前年同期比▲10.0ポイント悪化）。また、売上D Iは前期比4.0ポイント改善の▲8.7、収益D Iは同7.1ポイント改善の▲14.3と全てのD Iで改善しましたが、依然として全D Iで0を下回る厳しい状況にあります。来期（10～12月）の業況判断D Iは今期実績比3.1ポイント悪化の▲18.8と見込まれています。

東部地区においては、業況判断D Iが23.3と、前期の3.3から20.0ポイントの改善となりました（前年同期比33.3ポイント改善）。また、売上D Iは前期比10.0ポイント改善の16.7、収益D Iは同3.4ポイント悪化の3.3となりました。来期の業況判断D Iは▲26.7と今期実績比50.0ポイントの悪化が見込まれています。

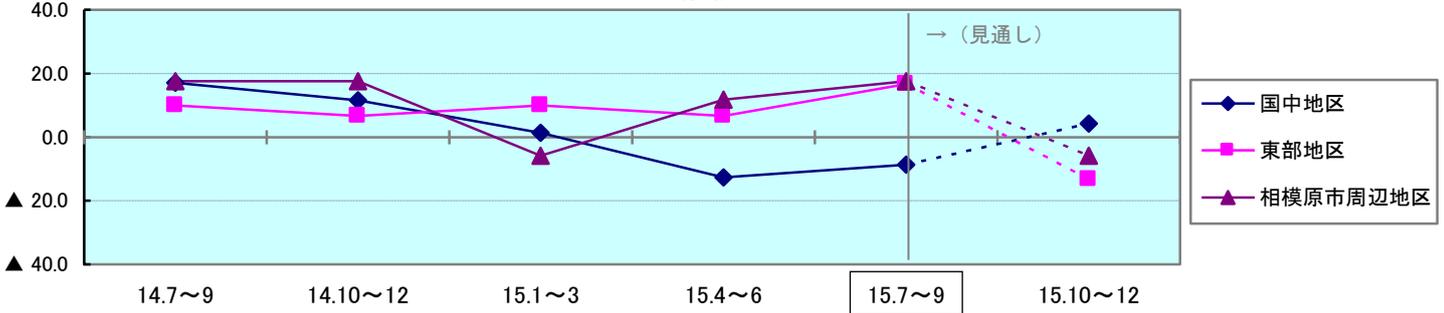
相模原市周辺地区においては、業況判断D Iが11.8と、前期の▲5.9から17.7ポイントの改善となりました（前年同期比11.7ポイント悪化）。また、売上D Iは前期比5.8ポイント改善の17.6、収益D Iは同横ばいの▲5.9となりました。来期の業況判断D Iは▲23.5と今期実績比35.3ポイントの悪化が見込まれています。

地区別に見た景況感は、全ての地区で改善しました。来期については全般に悪化が見込まれています。

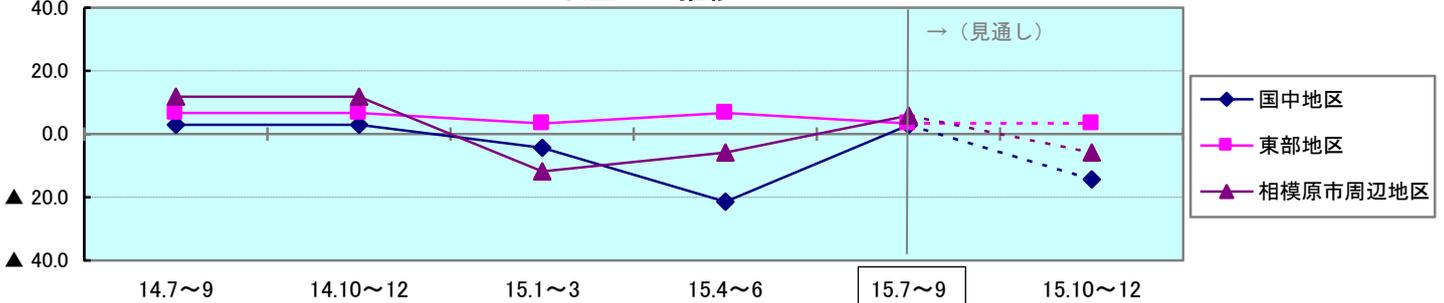
業況判断DIの推移



売上DIの推移



収益DIの推移

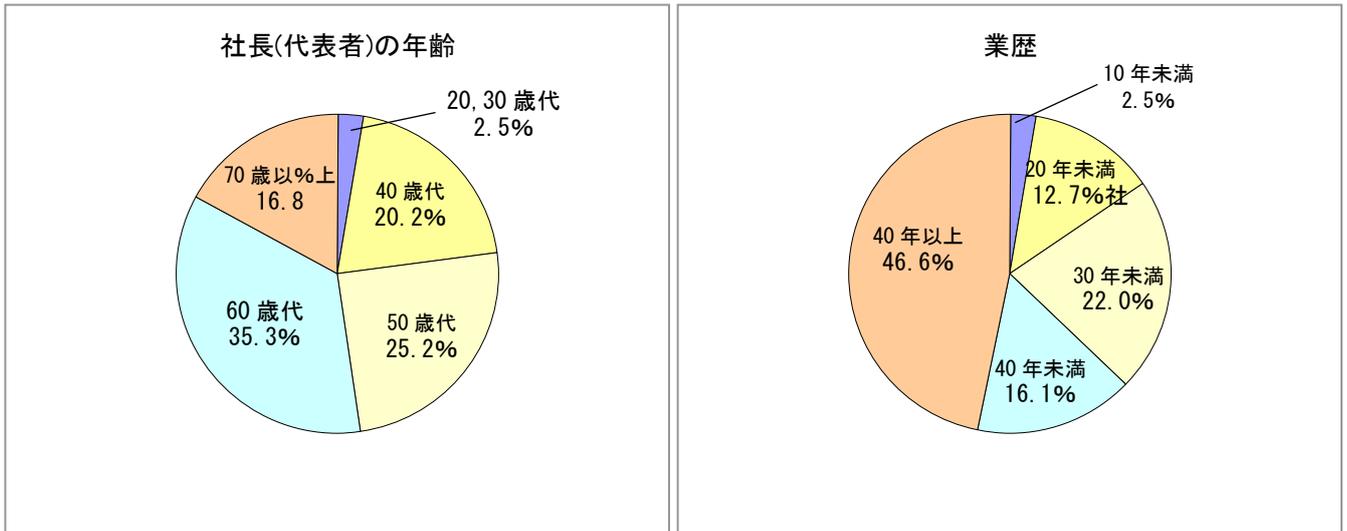


特別調査

中小企業が地域金融機関に望むこと

◆ 貴社の社長（代表者）の年齢と貴社の業歴についてお答えください。
（回答企業数：119社）

（単位：社）



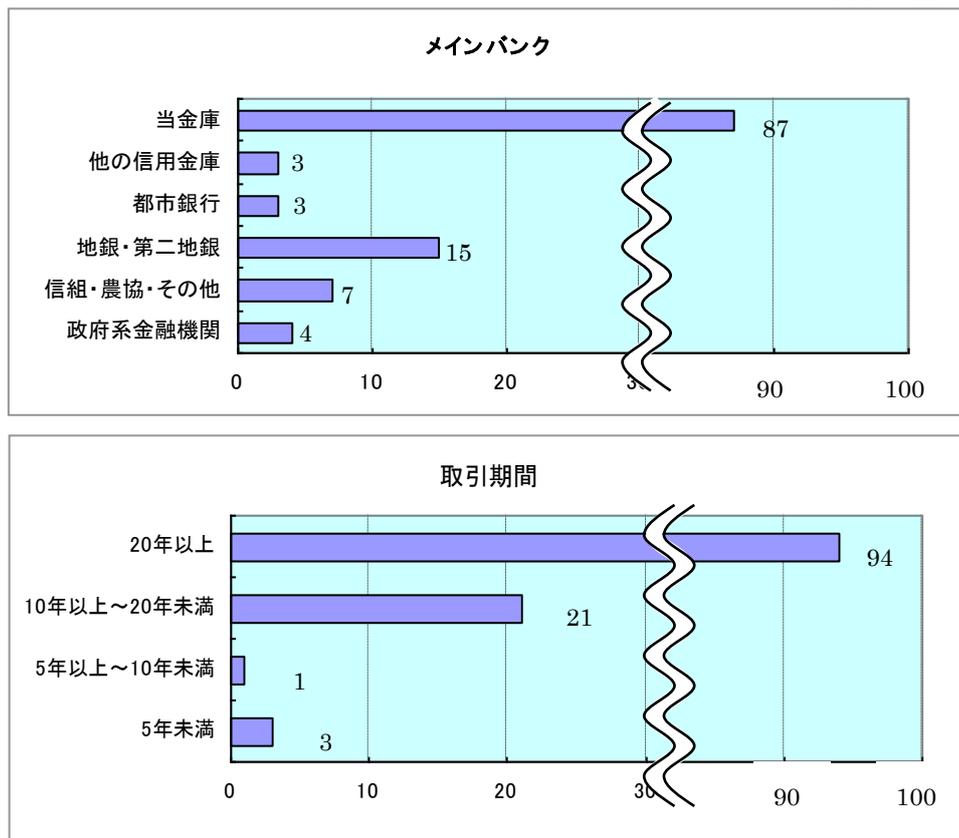
代表者の年齢の構成については、60歳代が42社(35.3%)と最も多く、次いで50歳代が30社(25.2%)、40歳代が24社(20.2%)と続いております。業種別に見ると、サービス業では40～50歳代で約60%を占めており、一方で建設業では60歳以上が約70%を占める結果となっております。

業歴については「40年以上」の企業が55社(46.6%)と最も多く次いで、「20年以上～30年未満」が26社(22.0%)、「30年以上～40年未満」が19社(16.1%)と続いております。

業種別にみると不動産業は「20年以上～30年未満」が75%を占めているものの、他の業種においては、30年以上の長い業歴のある企業が約6割を占める結果となっています。

◆ 貴社におけるメインバンクについてお答えください。また、メインバンクとの取引期間についてお答えください。（回答企業数：119社）

（単位：社）



メインバンクについては「当金庫」が 87 社（73.1%）と最も多く、次いで「地銀・第二地銀」が 15 社（12.6%）、「信組・農協・その他」が 7 社（5.9%）と続いています。

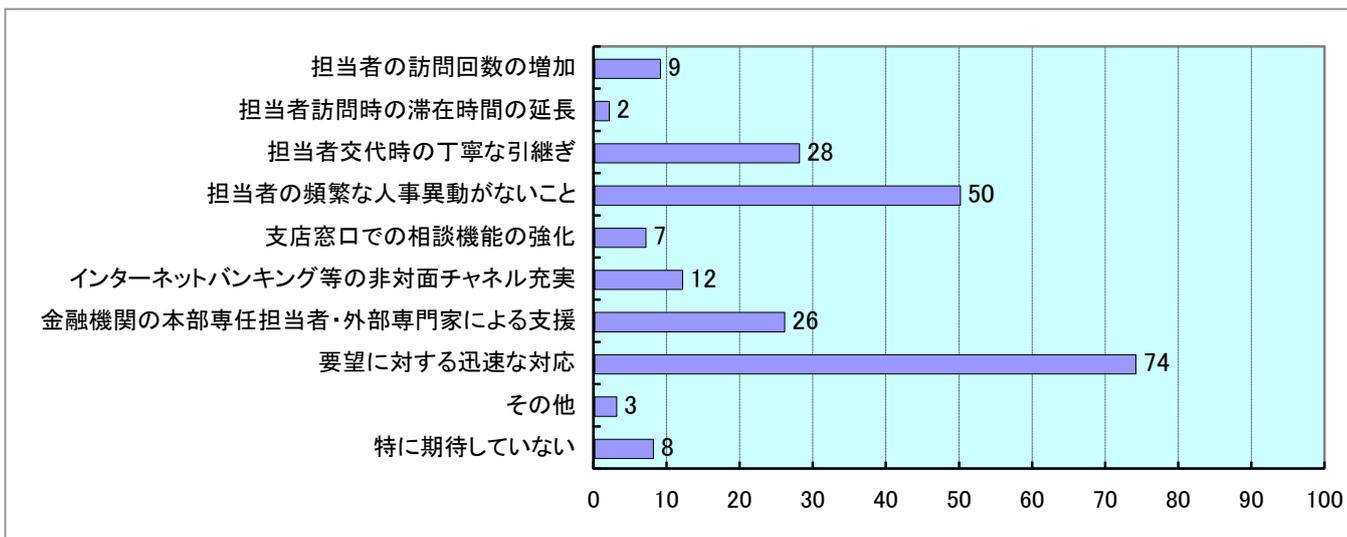
メインバンクとの取引期間については、20 年以上が 94 社（79.0%）と最も多く、ついで「10 年以上～20 年未満」が 21 社（12.6%）と続いています。

当金庫をメインバンクにご利用いただいている事業所のうち、約 79%に 20 年以上の取引をいただいている結果となりました。また、当金庫以外をメインバンクに利用している事業所においても、80%以上の事業所で、20 年以上、同一金融機関にて取引があるという結果となりました。

◆ 地域金融機関の体制面で望むことについてお答えください。

（回答企業数：119 社）※各社 3 つ以内で複数回答

（単位：社）



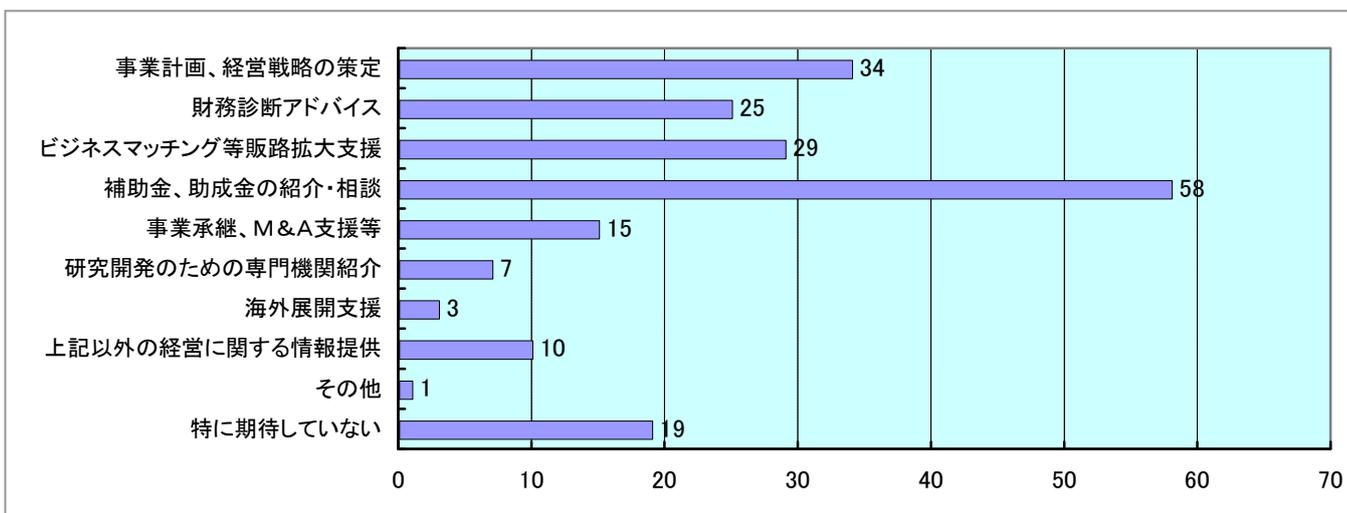
地域金融機関に体制面で望むことは、「要望に対する迅速な対応」との回答が、74 社と最も多く、次いで「担当者の頻繁な人事異動がないこと」が 50 社、「担当者交代時の丁寧な引継ぎ」が 28 社、「金融機関の本部専任担当者・外部専門家による支援」が 26 社と続いています。

業種やメインバンクの如何にかかわらず、多くの事業者が担当者との継続的な関係構築のなかで、要望に対して迅速に対応してほしいと考えていることがうかがえます。

◆ 地域金融機関にどのような金融取引以外の支援サービスを期待しますか。

（回答企業数：119 社）※各社 3 つ以内で複数回答

（単位：社）



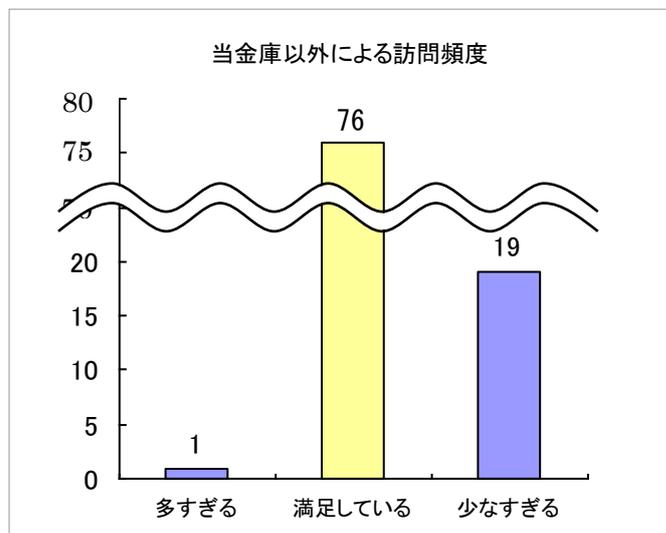
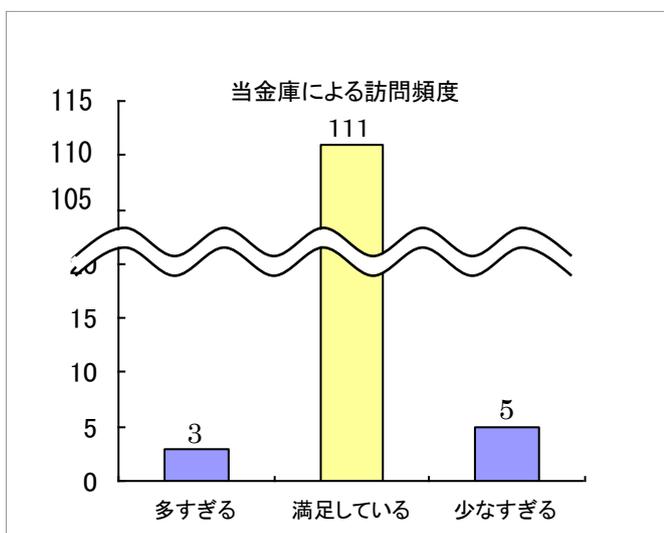
金融取引以外の支援サービスに望むことは、「補助金、助成金の紹介・相談」との回答が56社と最も多く、次いで「事業計画、経営戦略の策定」が34社、ビジネスマッチング等販路拡大支援が29社と続いています。

「補助金、助成金の紹介・相談」の回答数は全ての業種で最も多くなっており、補助金・助成金への関心の高さがうかがえる結果となりました。また、「事業計画、経営戦略の策定支援」や「財務診断アドバイス」の回答数も多く、金融機関ならではの視点から支援、アドバイスを求められていることが分かる結果となりました。

◆ 当金庫による貴社への訪問頻度、およびその他の主な取引金融機関による訪問頻度についてお答えください。

(回答企業数：119社)

(単位：社)



当金庫による訪問頻度は、111社(93.3%)が「満足している」と回答をいただきました。一方で、5社(4.2%)が「少なすぎる」、3社(2.5%)が「多すぎる」との回答をいただいております。

他の主な取引金融機関による訪問頻度については、76社(79.2%)が「満足している」と回答しています。一方で、19社(19.8%)が「少なすぎる」、1社(1.0%)が「多すぎる」と回答しています。(「当金庫以外取引なし」18社を除く)

また、当金庫をメインバンクとしている事業者の方の他金融機関の訪問頻度に対する評価では、「満足している」が80.0%、「多すぎる」が1.1%、「少なすぎる」が19.0%となっています。(「当金庫以外取引なし」18社を除く)

さらに、当金庫以外をメインバンクとしている事業者の方の当金庫の訪問頻度に対する評価では、「満足している」が90.6%、「多すぎる」が6.3%、「少なすぎる」が3.1%となっています。

調査員のコメント

製造業

○業況は安定しているものの、業者間の競争、仕入れ価格の上昇、納入先からの値下げ依頼など、利幅の減少は避けられない。今後、安定経営を持続するため、社長自ら営業活動に努めるとともに社員教育にも力を注いでいる。

(精密機械器具製造業)

卸売業

○今後、仕入れコストの増加や同業他社との競争激化が予想される中、取引先の見直しや品揃えの充実を図ることが重点課題となる。ビジネスマッチングなど活用し、売上・利益の拡大に努めていく方針である。(食料・飲料卸売業)

小売業

○国内外の他社製品との競合により、売上の確保が厳しい状況であるが、既存顧客を中心にセールスを行い、販売対象先の拡大に努めている。また、社長も高齢になってきており、後継者の選定や育成も今後の課題となっている。(自動車・自転車小売業)

サービス業

○当社、清掃業務をメインとしているが、積極的な営業活動により年間を通して新規の契約を獲得しているものの、一方で既存先の廃業・廃店や経費削減による清掃回数の減少があり、売上高の大幅な増加には至っていない。今まで、大口先を中心に売上を確保してきたが、今後は小口多数の営業に切り替え、安定した売上が確保できるよう努める。(その他のサービス業)

建設業

○受注状況は堅調に推移しているものの、材料費の高騰しており、請負価格と見合わず、利益確保に苦慮している。人材不足、従業員の高齢化も進んでおり、若手社員の確保・育成が今後の課題である。

(総合工事業)

不動産業

○商品物件が不足しており、売上、収益は前年同期比で減少傾向にある。

商品土地についての情報収集に努めており、社長自らも積極的に営業活動を行っている。また、経費節減にも力を入れている。(不動産代理業・仲介業)

編集後記

このたびの中小企業景気動向調査におかれましては、皆様にはお忙しいなか、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

今回の調査では、業況判断DIが前期比7.4ポイント改善の▲4.2と、前期の悪化から改善に転じました。一方で、依然厳しい経済情勢の中、原材料価格の上昇や業者間の競争の激化等により利益の確保に苦慮しているとの回答も多くみられました。来期の見通しについても、今期実績比16.1減少の▲20.3と見込まれています。

また今回の特別調査では「中小企業が地域金融機関に望むこと」というテーマで調査しました。日頃お取引をいただいている事業者の方々から、ご意見を頂ける貴重な機会となりました。

今回の結果を踏まえ、地域の金融機関として、皆様からの期待に応えられるよう、一層のサービス向上に取り組んでまいります。

また、本調査に関連し、当金庫では「山梨しんきんビジネスマッチング」を開催しております。新たな取引先の獲得の機会として積極的に活用していただきたいと考えております。

その他の中小企業の抱える様々な課題に対しましても積極的に支援していく所存ですので、引き続き当金庫をご利用いただきますようお願いいたします。